

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700051
法人名	有限会社 和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917-1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もみじ山の麓にあり、自然豊かで静かな環境の中にあります。表には季節の花を植え、裏に回ると家庭菜園が楽しめる畑があります。そこから一望できる景色はそう快で思わず深呼吸をしてしまいます。行事毎も多く家族合同の「遠足」や「夏祭り」があり、季節に応じたイベントへの外出や参加もしています。職員は利用者の方々の思いを受止安心・安楽な暮らしが送れるよう心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神南山や紅葉の名所である稲荷山近くの自然豊かな場所にある事業所は、大洲市中心部や大洲インターチェンジからも近く交通の便に優れている。木造平屋造の建物で、ウッドデッキや眺めの良い畑、各所に設けられたベンチ等、生活する利用者の立場で環境を整備している。代表者は職員との信頼関係づくりに努めており、大切に思う気持ちが職員の姿勢に表れている。「その人らしさを大切にしたいあたたかいホームを目指します」という理念は運営に活かし、利用者の高齢化や重度化に伴い、事業所の役割を全うしようと真面目な取り組みが伺える。昔ながらの交流が残る地域との関係づくりに努め、協力医や訪問看護との柔軟な医療連携等、利用者一人ひとりのことを考え安心した暮らしの実現をサポートしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム春のうらら
(ユニット名)	つくしんぼ
記入者(管理者)	
氏名	田中 美知子 ・ 金山 津由子
評価完了日	平成 25 年 9 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「その人らしさを大切にした あたたかいホームを目指します」という理念を職場の目に付くところに貼り、ユニット目標「スマイル♡気持ちをつなぐ」と共に実践できるよう努力している	
			(外部評価) 事業所理念やユニット毎の目標に関わる全ての存在に感謝し大切に思う気持ちを込めて、分かりやすい言葉にして掲げている。入職時には利用者の住み慣れた地域での暮らしを支えるための心構えとして、管理者から説明され、職員全員で理念を共有している。管理者は気になることがある場合には、その都度原点に立ち返り、振り返るよう職員に声かけをしながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の運動会やお祭り等に参加して交流を図っている。また、文化祭を催し、地域の方に足を運んでいただいている。散歩道にはベンチを設置して 地域の方々にも利用していただいている 最近では利用者の体力低下により散歩に出ることが少なくなってきた	
			(外部評価) 代表者や職員の多くが地域に在住しており、地域住民との古くからのつきあいが密接にある。公民館長や区長が事業所の強い協力者となり、地区運動会や祭りに参加したり、地域住民が事業所の文化祭等への参加協力があるなど、相互の協力関係が築かれている。また、事業所では自主的に地域の清掃活動を行い、建物周辺に設置したベンチで近隣住民と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会で地域の方を交えて、認知症の理解や支援の方法を伝達している。また、文化祭を催し、地域の方に来て頂き、利用者と一緒に時を過ごす事で理解を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 行事や取り組み状況を報告し、助言を頂いている 公民館の行事案内やお誘いもあり、意見交換を通じてホームの取り組みに活かしている</p> <p>(外部評価) 年度初めに運営推進会議の構成員を選定している。会議は利用者や家族、公民館長、区長、小学校長、他のグループホームの管理者、市担当者等の参加を得て、2か月毎に開催している。会議では、事業所の取組みの報告や地域の情報周知、意見交換が活発に行われている。地域その他グループホーム管理者等の参加も多く、グループホーム間での深い意見交換ができていのも魅力である。</p>	<p>会議ではすべての参加者から意見が出て意見交換が行われており、事業所の努力が伺える。今後は、報告中心の会議内容から、事業所が地域に貢献できる勉強会を一緒に開催する等、活発な意見を運営に活かせるように、さらに中身の濃い活性化した会議となることを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険の事や、更新時の書類作成など、わからない時は連絡を取り助言をいただいている 運営推進会でも意見や情報提供をしていただき 協力関係は築けている</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、意見交換や情報を得ている。また、日頃から気軽に窓口に相談するなど、相互の良好な関係が築かれている。生活保護受給の利用者には、定期的に生活状況の確認の訪問がある。また、大洲市内のグループホーム連絡会では横のつながりも築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束については理解をしており、ホーム内でそのような行為はないと思う 7月の勉強会で「身体拘束虐待防止」を取り上げ再認識している 本人のペースを大切にして危険のないよう目配りや気配りをしている</p> <p>(外部評価) 毎月開催される勉強会は、職員が持ち回りで担当しており、「身体拘束をしないケア」もテーマに取り上げ、正しく理解して身体拘束をしないケアを実践している。玄関は日中開放されており、利用者は自由に出入りすることができる。また、帰宅願望の強い利用者には、職員間で見守りを徹底し、安心して生活できるよう取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 7月に勉強会を実施して学んでいる 不適切な言葉などがないように職員間で注意し合っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会で学んだが、理解している職員は少ない 現在、制度を利用している方がいるが きちんと対応が出来るように勉強していきたい 又、その方が安心して暮らせるようにサポートをしていきたい	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 8月の勉強会で、「「ホームの契約概要」を詳しく学んだ 入居時には本人と家族が「納得いくように」時間をとり契約をすすめている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族参加の行事で意見を伺っている アンケートも実施しており、直接言えないことや要望などを出していただくようにしている。また、運営推進会議で、家族代表の2名の方より、忌憚のない意見を出していただいている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に利用者の生活の様子を報告して、意見を聞くように努めている。また、家族会や家族合同遠足等を企画し、家族と信頼関係を築き、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。年2回、家族アンケートを実施し、利用者や家族等の満足度や要望を聞き、出された意見は真摯に受け止め、職員間で話し合い迅速な改善に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議で意見を求めたり、改善したいことを話し合っている 用紙記入で提出するなどの形態をとることもある 個人面談もあり職員の意見は反映されている (外部評価) 代表者は事業所の運営を「職員あってこそ」行えると大切に考え、日頃から気持ちを言葉にして伝えている。代表者は、年2回個人面談を実施するほかに職員アンケートも実施し、言いにくいことも伝えることができるよう工夫して職員の働く環境の整備に努めている。また、ユニットリーダーを中心に職員同士でお互いに考え、注意し合えるチーム作りができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 小さな事業所なので、出来る事は限られているが、常に考えているつもりです。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社内では月1回の職場内研修を行っているし、会社外での研修は適切な研修内容には参加するように指導しているし、情報の提供は行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 平成24年9月に大洲市のグループホームの会を発足し「大洲市GH連絡会」とした。25年度は4回実施し、別に毎月各GH訪問研修を実施中です。また、大洲市主催の担当者化には参加するようにしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居後は声かけを多めにして不安を取り除き安心確保に努め、家族との連絡も心がけている 本人の要望に添えるよう、話に耳を傾ける努力をしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族の要望を伺うと共に「安心してホームに預けていただける様な雰囲気作りを大切にしている 又、何でも遠慮なく話し、気軽に来所していただけるように、ご家族と職員の関係作りも心がけている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の要望をもとに「支援できること」と「支援できないこと」を伝えている 他のサービスには「マッサージ」や「介護タクシー」の利用がある	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が主体であり「生活者の一員として接している 出来ない所はさり気なく支援していき、できる所は手を出し過ぎないように見守っている 「一緒に暮らしていく」関係を築けるよう努力している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 機会をみて家族に声かけをしている 家族の意見や要望も取り入れつつ、双方で本人を支援している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人が気軽に面会に来られるように雰囲気作りに努めている 職員が馴染みの人や場所を把握出来ていない事もあるので、面会に来られた方は覚えるようにしている 又、行事の外出時に本人の馴染みの家が近いと訪問していただくこともある (外部評価) 知人等の訪問があれば温かく迎え入れるなど、事業所を訪問しやすいように努めている。外出時には、利用者の馴染みの場所に立ち寄るなど、大切にしてきた関係が継続できるように努めている。また、利用者同士の新たな馴染みの関係づくりを大切に支援している。過去に親しんだ俳句や趣味など、自宅と同じように継続できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う同士が交流を持つ場面はある 孤立する方が出来ないように職員が間に入り支援しているが、一人の時間も大切にさせていただけるよう配慮している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されるとお見舞いに行き、亡くなられた時は告別式に参列させていただいている 又、施設を変わられた後でも、情報をいただきその方の暮らしぶりを知ることもある	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションの中で その方の要望や意向は把握している 意思を伝えられない方は、本人の立場に立って考え、家族と話し合いのもと検討している (外部評価) 日々の生活の中で利用者から聞いた要望を「私の姿と気持ちシート」に記録し、職員間で共有している。多くの利用者は思いを伝えることが困難になりつつあるが、「はい・いいえ」で返答しやすい質問をする工夫をしたり、経験や利用者の表情などから気持ちに沿える支援が行えるよう職員間で話し合い、家族の協力も得ながら把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報提供書や、本人、家族との会話の中からその方の趣味や暮らし方を把握し、サービスの上で役立てるようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録、申し送り、職員会議での話し合いを通じ把握している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族の意向を確認した後、カンファレンスをもちプランを作成している その方の「今、必要な支援」を探り、職員の意見やアイデアを反映させている 月一回の評価も行っている (外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して、計画作成担当者が身近な言葉で具体的な介護計画を作成している。介護計画に沿った実施状況の記録をしている。モニタリングはユニットリーダーを中心にミーティングで行い、職員全員で関わるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録、申し送りノートにより、情報の共有をしている 職員間の話し合いやアイデアから見直しをすることもある	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 訪問マッサージ 介護タクシーの利用などがある ニーズに応じて柔軟な対応が出来るように努めている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、公民館、介護相談員、訪問美容室、寺、ボランティアなど、地域の人や場を借りて豊かな暮らしを支援している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族から希望がない時は ホームドクターを「かかり つけ医」としている 他に「歯科」「皮膚科」なども症状に応じて受診・往診の支 援をしている	
			(外部評価) 利用者や家族等が希望するかかりつけ医や専門医を、家族の 協力を得て受診している。多くの利用者は、事業所近くにあ る協力医をかかりつけ医としている。協力医が月2回往診を して利用者の健康管理をしており、夜間や緊急時にも気兼ね なく協力要請をできる関係を築いており、利用者は安心して 生活を送ることができる。毎週、看護師が健康管理もしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が週一回、訪問している 職員は「連絡ノート」に利用者の一週間の様子を記入し、伝 達ミスがないようにしている 他に、利用者の体調管理について助言をいただいている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の担当職員を通じて情報をいただいたり、お見舞いの時 に状態を伺っている スムーズに退院が出来るように話し合いながら、退院計画の 支援に努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意向を含め、医療チームと相談しながら支援しようと 思うが、まだ具体的な取り組みには至っていない 今の事業所の力量で どこまでやれるのか見極めが出来ない	
			(外部評価) 看取りは未経験であるが、重度化した場合における看取り指 針を作成しており、事業所としてできることできないことを 明確に利用者や家族に説明し意向を確認している。協力医や 24時間対応の訪問看護等と連携して、緊急時にも対応でき るような体制を整えている。また、職員間で看取りの勉強会 を開催している。	代表者や職員は、利用者や家族等をしっかり支えてい きたいと考えている。看取りが未経験による職員の不安 も強く、今後も定期的に話し合いや勉強会を開催 し、職員全員で疑問や不安の解消に継続して取り組ん でいくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会で再認識しながら備えているが 全ての職員が実践力を見につけているとはいえない 職員間に差がある	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練を年に2回行っている 地域の住民の協力を得られるよう連携の体制は出来ているが、万全がどうか不安もある	
			(外部評価) 消防署の協力を得て、年3回防災訓練を実施しており、専門的なアドバイスをもらっている。また、年2回に自主防災訓練を行い、避難経路の確認や初期消火等のテーマを設けて取り組んでいる。訓練では、地域の避難場所の確認や地域と連携した防災訓練ができています。事業所の平屋造りの建物構造上、避難経路が複数確保することができる。	自主的な防災訓練に取り組む姿勢が素晴らしく、今後も安全に利用者が避難できるよう訓練を継続することが望まれる。また、地域住民との協力関係が構築され安心感がある。今後は地域住民に具体的な役割を担ってもらい、一緒に訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室やトイレに入る時は、ノックや声かけをして入っている 入浴中の配慮も心がけている 日常の言葉かけや名前呼び方にも気をつけている	
			(外部評価) 利用者の個人情報の取り扱いには注意しており、使用する場合には同意書を取っている。書類も鍵付きのキャビネットに保管する等、常に気を付けて取り扱いをしている。職員の慣れからくる口調をはじめ、利用者への声かけや接遇面にも気をつけ、職員間で注意し合っている。家族アンケートで対応の意見を聞き、客観的意見をもらい業務改善を行っている。また、職員間で接遇等の勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) こちらから決め付けるのではなく「どうされますか」と問いかけ 本人が決められるように働きかけている 外出時のおしゃれ着なども さり気なく声かけして支援している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを重んじているが 居室で寝たきりにならない様に声かけをしている 又、入浴は安全面を考えて、職員の多い午後に行っている 全てが希望に添うことは難しい	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや気分を大事にして、服を選んだり身だしなみを整えていただくようにしている 季節にそぐわない服のときは、さり気なく見合った装いになるよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の用意も「みんなでやりましょう」とプランを立て役割分担をしながら職員と共に行っている 食後の下膳や後片付けも一緒にしている (外部評価) 地域商店から食材を届けてもらい、職員が調理している。食卓には利用者と一緒に育てた季節の野菜が並んでいる。利用者は職員と一緒に下ごしらえなど、できることを手伝っている。前傾姿勢のため手元が見えにくくなった利用者には、他利用者と一緒に食事が楽しめるよう手作りの台を作成するなど、職員のアイデアと行動力によりサービス向上に努めている。また、誕生日にはリクエストメニューや手作りのケーキを作り、利用者は楽しみにしている。外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立作成は職員の当番制で立てるが ホーム長がチェックして偏りを防いでいる 食事の形態は個人の状態に応じて刻み食やトロミ剤を取り入れている 水分補給も意識して支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 全員、ケアの実施が出来ている 夕食後は入れ歯洗浄剤などを使って清潔にし義歯管理も出来ている 介助のいる方は食前に口をすすぎ、口腔内の汚れを取り 食事を取っている 食後の口腔ケア介助も出来ている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) チェック表を活用して その方のパターンやサインを見つけトイレでの排泄を大切にしている 「オムツからリハビリパンツへ」「Pトイレからトイレへ」など自立に向けて支援が来ている</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、トイレ誘導をするなど、できる限りトイレでの自然な排泄が行えるよう支援している。服薬や食事、水分、運動等を総合的に検討し便秘対策に努めている。また、利用者に合わせてパッドやリハビリパンツ等を時と場所、目的等、必要に応じて選択して使用しており、利用者本位のケアに努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の状態に合わせて対応している 運動、水分量、便秘薬の服用など予防に取り組んでいる</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合わせることは難しいが楽しみな時間になるよう気をつけている 週2回「温泉の日」を作り入浴剤で気分を味わって頂いる 温泉の看板も作り戸口にぶら下げて 目でも楽しめるようにしている 全身チェックをして状態観察もしている</p> <p>(外部評価) ユニット毎に3方向から介助できる広くゆったりとした個別浴槽があり、利用者は週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に応じて職員複数体制で介助しており、安心安全に入浴を楽しんでもらえるように配慮している。入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく、声かけ等に工夫をして対応している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人のペースに合わせて休めるように支援している</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書はファイルに綴じていつでも見られるようにしている 薬の変更はノートに書いて伝達している 誤薬防止の為 服薬前に「名前、日付、時間」を声に出し確認した後で介助している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の好みや出来る事を把握し、声かけをしている 役割を持つことで張り合いが出来、人の役に立つという喜びも見出されている 生活にリズムが出来て楽しみながら過ごされている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム近所の外出は出来るが、少し離れた戸外になると出来ていない 家族の協力のもと実施できる方もいるが一人ひとりの希望に添うのは難しい	
			(外部評価) 事業所の広い敷地の各所にベンチを設け、利用者は散歩や外気浴を楽しめるよう環境整備をしている。眺めの良い畑やユニット間のウッドデッキ等利用者は自由に行き来することができ、利用者は気分転換を図っている。行事等を利用して、日頃行けない場所へ出かけ、家族の協力を得て家族合同での遠足等を実施するなど、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持の支援は行っていない 所持金があるときはホーム管理としている 買い物援助はお金を本人に渡して支援するが、現在は「買い物外出」が出来ていない	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話をつなぎ話をしていただくが、相手の都合や時間帯を考えて支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) シルバーカーや車椅子でも移動が出来るように 広いスペースが保たれている 壁の色も明るく暖かな雰囲気がある コーナーには季節に合った生花や装飾品の展示をしたり、利用者と一緒に壁面創作を手がけて工夫をしている</p> <p>(外部評価) 木造平屋の共用空間は、開放的で広々とした造りになっている。採光窓からの自然光や快適な暖かさが得られる床暖房があり、清潔に保たれ利用者は快適に過ごすことができる。広い畳スペースやユニット間のウッドデッキ、景色を見渡せる畑等、利用者の立場に沿った配慮が随所に見られ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畑のベンチや和室など、各自が好きに過ごせる空間がある ソファに座ってテレビを見たり、他者と話したりして自分のペースで過ごされている</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の机や椅子、手芸作品などがあり、個性のある居室になっている 仏壇を置き、ご先祖の供養をされる方もいる 自室の壁には行事の写真や家族と一緒に写真を貼り、思い出していただく工夫もしている</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、利用者の思い入れのあるものを持ち込むことができる。居室には仏壇やテレビ、寝具等を持ち込み自由にレイアウトして楽しんでいる。床に布団を敷いたり、床で生活できるよう工夫された居室もあり、利用者の習慣に合わせた暮らしを実現している。また、居室入口には利用者の目線に合わせた場所に表札を設置して、混乱を防止している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者は自力歩行、シルバーカー、車椅子と様々であるため、安全面を重視して廊下に何も置かないようにしている 部屋の整理整頓を行い、転倒防止や清潔保持に努めている 洗面台は車椅子が楽に入れる作りで使いやすい</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700051
法人名	有限会社 和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917-1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神南山の麓の高台にあり、自然に囲まれた見晴らしのよい場所に位置しています。裏の畑では利用者様と一緒に作物を育てたり、テラスでは歌を歌ったり、日向ぼっこをしたりと、ゆったりとした時間の中で一人おひとりが過ごされています。「その人らしさを大切にしたいあたたかいホームを目指します」という運営理念の下、この雰囲気を最大限に活かし、のんびりとした時間の中で、笑顔あふれる施設になるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神南山や紅葉の名所である稲荷山近くの自然豊かな場所にある事業所は、大洲市中心部や大洲インターチェンジからも近く交通の便に優れている。木造平屋造の建物で、ウッドデッキや眺めの良い畑、各所に設けられたベンチ等、生活する利用者の立場で環境を整備している。代表者は職員との信頼関係づくりに努めており、大切に思う気持ちが職員の姿勢に表れている。「その人らしさを大切にしたいあたたかいホームを目指します」という理念は運営に活かし、利用者の高齢化や重度化に伴い、事業所の役割を全うしようと真面目な取り組みが伺える。昔ながらの交流が残る地域との関係づくりに努め、協力医や訪問看護との柔軟な医療連携等、利用者一人ひとりのことを考え安心した暮らしの実現をサポートしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春のうらら

(ユニット名) 菜の花

記入者(管理者)
氏名 西平 憲司

評価完了日 平成 25 年 9 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を目標に、職員全員で目指し、実践できるように努めている。「感謝。助け合い。ほう、れん、そうの徹底。」をユニット目標に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所理念やユニット毎の目標に関わる全ての存在に感謝し大切に思う気持ちを込めて、分かりやすい言葉にして掲げている。入職時には利用者の住み慣れた地域での暮らしを支えるための心構えとして、管理者から説明され、職員全員で理念を共有している。管理者は気になることがある場合には、その都度原点に立ち返り、振り返るよう職員に声かけをしながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 春はお寺の花祭り、秋は地域の運動会、保育所との交流等、地域の行事に対して積極的に参加している。事業所でも文化祭を催し、地域の多くの方々に訪問して頂き施設に対する理解をして頂いている。</p> <p>(外部評価) 代表者や職員の多くが地域に在住しており、地域住民との古くからのつきあいが密接にある。公民館長や区長が事業所の強い協力者となり、地区運動会や祭りに参加したり、地域住民が事業所の文化祭等への参加協力があるなど、相互の協力関係が築かれている。また、事業所では自主的に地域の清掃活動を行い、建物周辺に設置したベンチで近隣住民と交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の地域代表、家族代表に認知症に対する理解、情報を発信しています。また事情所の広報を回覧板で閲覧して頂くことにより、事業所の取り組みに対しても地域の方々に理解して頂くように努めています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の構成員の方々には様々な助言や意見を頂き、 事業所での実践につなげています。地域の行事の予定、案内 のお誘いもあり、事業所での活動に役立たせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 年度初めに運営推進会議の構成員を選定している。会議は利 用者や家族、公民館長、区長、小学校長、他のグループホー ムの管理者、市担当者等の参加を得て、2か月毎に開催して いる。会議では、事業所の取組みの報告や地域の情報周知、 意見交換が活発に行われている。地域の他グループホーム管 理者等の参加も多く、グループホーム間での深い意見交換が できているのも魅力である。</p>	<p>会議ではすべての参加者から意見が出て意見交換が行 われており、事業所の努力が伺える。今後は、報告中 心の会議内容から、事業所が地域に貢献できる勉強会 を一緒に開催する等、活発な意見を運営に活かせるよ うに、さらに中身の濃い活性化した会議となることを 期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者の方には運営推進会議で、様々な情報、意見、助言 を頂いている。すぐに問い合わせ出来る関係を築くよう努め ている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、意見交換や情報を 得ている。また、日頃から気軽に窓口に相談するなど、相互 の良好な関係が築かれている。生活保護受給の利用者には、 定期的に生活状況の確認の訪問がある。また、大洲市内のグ ループホーム連絡会では横のつながりも築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については定期的に勉強会での題材に取り上げ、職 員共通の理解を深めている。身体拘束のない施設になるよ うに努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月開催される勉強会は、職員が持ち回りで担当しており、 「身体拘束をしないケア」もテーマに取り上げ、正しく理解 して身体拘束をしないケアを実践している。玄関は日中開放 されており、利用者は自由に出入りすることができる。ま た、帰宅願望の強い利用者には、職員間で見守りを徹底し、 安心して生活できるよう取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については、勉強会にも取り上げ理解、実践に努めている。不適切な言葉に対するの注意等虐待のないように職員同士気をつけ努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に対しては、勉強会を通して職員全員が理解できるようにしていますが、きちんと理解している職員は少ない。制度を利用されている利用者もいる為、適切なサポートが行えるようより一層の理解に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関する事は施設長、管理者、リーダーに一任していたが、勉強会の題材に取り上げ職員全員の理解に努めている。入居にあたっては不安や疑問点のないよう、十分な時間をかけて説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) アンケート、家族会を通じて意見や要望を表し、事業所がその意見を反映できるように努めている。面会時等には要望、意見をさりげなく聞くようにし、要望に対しては迅速に対応するようにしている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に利用者の生活の様子を報告して、意見を聞くように努めている。また、家族会や家族合同遠足等を企画し、家族と信頼関係を築き、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。年2回、家族アンケートを実施し、利用者や家族等の満足度や要望を聞き、出された意見は真摯に受け止め、職員間で話し合い迅速な改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個人面談、会議を通して、意見提案を出来やすい機会を設けている。施設長、管理者は、その意見について熟慮し解答、出来る事に対しては実施をしている事で次の提案、意見が出やすくなっている。</p> <p>(外部評価) 代表者は事業所の運営を「職員あってこそ」行えると大切に考え、日頃から気持ちを言葉にして伝えている。代表者は、年2回個人面談を実施するほかに職員アンケートも実施し、言いにくいことも伝えることができるよう工夫して職員の働く環境の整備に努めている。また、ユニットリーダーを中心に職員同士でお互いに考え、注意し合えるチーム作りができています。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 小さな事業所なので、出来る事は限られているが、常に考えているつもりです。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 会社内では月1回職場内研修を行っているし、会社外での研修は適切な研修内容には参加するように指導しているし、情報の提供は行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 平成24年9月に大洲市のグループホームの会を発足し「大洲市GH連絡会」とした。25年度は4回実施市、別に毎月各GH訪問研修を実施中です。また、大洲市主催の担当者会には参加するようにしている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居後は多くの声かけと共に他の利用者との間に入り、良い関係が築けるように配慮している。不安が取り除け、安心して生活出来るように、ご家族からの情報、本人様の情報、要望を元に良い関係を築けるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には入居に対する不安、要望に対して話を聞く機会、時間をゆっくりと持っている。入居後は家族と連絡を取り、要望に耳を傾けると共に、近況の報告を伝え、信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 現時点で対応できる支援、出来ない支援をきちんと伝え、必要とし、対応できる支援に対しては最大限意向に沿って支援する事を心がけ、行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人を大切にすることを重視し、できる事に対しては職員が手を出しすぎず、見守るように注意し、出来ない、出づらい事に対して、職員がお手伝いする事を心がけている。相互の信頼関係の構築に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の意見を出来る限り取り入れ職員、家族双方で利用者を支えていくように支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方の訪問は一部の方だけであるのが現状です。出来る限り、馴染みの場所へ行ったり、見たり出来るよう、外出時の行き先、ルートを気をつけている。 (外部評価) 知人等の訪問があれば温かく迎え入れるなど、事業所を訪問しやすいように努めている。外出時には、利用者の馴染みの場所に立ち寄るなど、大切にしてきた関係が継続できるように努めている。また、利用者同士の新たな馴染みの関係づくりを大切に支援している。過去に親しんだ俳句や趣味など、自宅と同じように継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士だけでなく、あまり話されない方に対しても職員が間に入り、関わりが持てる関係を作れるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も情報提供、暮らし方、必要な支援について関係者に詳しく伝えています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意向、希望を聞くだけでなく、ささいな会話等にも耳を傾けて把握に努めている。把握が困難な方に対しては、家族と相談しながら本人にとって何が一番よいのか検討している。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者から聞いた要望を「私の姿と気持ちシート」に記録し、職員間で共有している。多くの利用者は思いを伝えることが困難になりつつあるが、「はい・いいえ」で返答しやすい質問をする工夫をしたり、経験や利用者の表情などから気持ちに沿える支援が行えるよう職員間で話し合い、家族の協力も得ながら把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、入居後、情報提供書、本人、家族との会話の中から得た情報を元に来る限り、馴染みの暮らし方に添えるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 出来る事、困難なことを記録、申し送りを通して職員間で把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の要望、意向を確認すると共に、職員の意見や情報を反映させに三ヶ月に一回介護計画を作成している。月に一回介護計画の評価も行い、必要な事を反映できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して、計画作成担当者が身近な言葉で具体的な介護計画を作成している。介護計画に沿った実施状況の記録をしている。モニタリングはユニットリーダーを中心にミーティングで行い、職員全員で関わるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気付いた事に対しては、申し送り、介護記録、申し送りノートを活用し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所に対応できるニーズに対しては新たな事に対しても挑戦し、事業所では対応不可能な事に対しては、外部の業者（介護タクシー、訪問マッサージ、リハビリ）を活用し取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、地域の行事、介護相談員、訪問美容室等を活用し、安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 希望がない場合は施設の主治医を利用しています。利用者の 状態に変化があれば、かかりつけ医とすぐに連絡がとれ、往 診、受診と、適切な支援が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族等が希望するかかりつけ医や専門医を、家族の 協力を得て受診している。多くの利用者は、事業所近くにあ る協力医をかかりつけ医としている。協力医が月2回往診を して利用者の健康管理をしており、夜間や緊急時にも気兼ね なく協力要請をできる関係を築いており、利用者は安心して 生活を送ることができる。毎週、看護師が健康管理もしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週に一回看護師が訪問し、利用者の一人一人に対して体調の 管理、助言、アドバイスを適宜頂いている。それをふまえて適 切な受診が受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院からの情報や、お見舞い時の様子、看護師からの状態の 報告を踏まえ、早期に退院できる準備に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意向も含めた中で主治医、看護師とも連携し相談しな がら支援していくようにしている。勉強会等を通じて支援の 方法等について学んでますが、現時点では看取りを行ってい ない為、どこまで対応できるのかが課題です。	
			(外部評価) 看取りは未経験であるが、重度化した場合における看取り指 針を作成しており、事業所としてできることできないことを 明確に利用者や家族に説明し意向を確認している。協力医や 24時間対応の訪問看護等と連携して、緊急時にも対応でき るような体制を整えている。また、職員間で看取りの勉強会 を開催している。	代表者や職員は、利用者や家族等をしっかり支えてい きたいと考えている。看取りが未経験による職員の不 安も強く、今後も定期的に話し合いや勉強会を開催 し、職員全員で疑問や不安の解消に継続して取り組ん でいくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署の心配蘇生法講習、勉強会を通じて訓練を行っている。実践力に対しては、個々の職員の個人差が大きく、全ての職員が万全に見につけてるとは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練を年に2回行っています。近所の方に参加して頂き訓練を行い、協力体制は築けていると思いますが、万全にするためには今後も定期的に近所の方々に訓練に参加していただくことが必要。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年3回防災訓練を実施しており、専門的なアドバイスをもらっている。また、年2回に自主防災訓練を行い、避難経路の確認や初期消火等のテーマを設けて取り組んでいる。訓練では、地域の避難場所の確認や地域と連携した防災訓練ができています。事業所の平屋造りの建物構造上、避難経路が複数確保することができる。	自主的な防災訓練に取り組む姿勢が素晴らしく、今後も安全に利用者が避難できるよう訓練を継続することが望まれる。また、地域住民との協力関係が構築され安心感がある。今後は地域住民に具体的な役割を担ってもらい、一緒に訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格、尊厳を尊重し、声かけに気をつけるようにしている。勉強会でも題材に取り上げ、職員の理解も深まってきた。 (外部評価) 利用者の個人情報の取り扱いには注意しており、使用する場合には同意書を取っている。書類も鍵付きのキャビネットに保管する等、常に気を付けて取り扱いをしている。職員の慣れからくる口調をはじめ、利用者への声かけや接遇面にも気をつけ、職員間で注意し合っている。家族アンケートで対応の意見を聞き、客観的意見をもらい業務改善を行っている。また、職員間で接遇等の勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の選択に対して問いかけ、思いや希望を尊重しただけ自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のペース、希望を尊重しているが、体調を観察しつつ、出来る限り日中離床している時間をつくるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定できる方は尊重しつつも、季節に合わせた身だしなみ、服が選べるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 台所に立って作業出来る方は少ない為、盛り付け、食器拭き、食材の準備の軽作業等参加している。	
			(外部評価) 地域商店から食材を届けてもらい、職員が調理している。食卓には利用者と一緒に育てた季節の野菜が並んでいる。利用者は職員と一緒に下ごしらえなど、できることを手伝っている。前傾姿勢のため手元が見えにくくなった利用者には、他利用者と一緒に食事が楽しめるよう手作りの台を作成するなど、職員のアイデアと行動力によりサービス向上に努めている。また、誕生日にはリクエストメニューや手作りのケーキを作り、利用者は楽しみにしている。外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスは献立を施設長が確認し、偏りがないようにしている。食事形態は一人一人に合わせて刻み、ミキサー、量を調整している。水分補給も意識して提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけをし、習慣になっています。出来ない方に対しては職員が介助し、義歯は毎晩洗浄し清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) トイレチェック表を活用して排泄のパターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄していただくように援助している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、トイレ誘導をするなど、できる限りトイレでの自然な排泄が行えるよう支援している。服薬や食事、水分、運動等を総合的に検討し便秘対策に努めている。また、利用者に合わせてパッドやリハビリパンツ等を時と場所、目的等、必要に応じて選択して使用しており、利用者本位のケアに努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 運動、水分量、食物繊維の摂取と共に、便秘薬を活用し予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 好きな時間は対応が難しい為、一定の時間は定めている。入浴は本人の意思を尊重しながらも、入浴が嫌いな方には清潔を保つことのできる頻度での入浴は行っている。入浴が楽しい時間になるように、ゆっくりとした時間をとっている。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に3方向から介助できる広くゆったりとした個別浴槽があり、利用者は週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に応じて職員複数体制で介助しており、安心安全に入浴を楽しんでもらえるように配慮している。入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく、声かけ等に工夫をして対応している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の生活のペースを尊重し、自由に休息できるようにしている。体調をみながら状況に合わせて居室で休息がとれるように支援も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類、目的、副作用等についてはいつでも確認できるようにファイルし、変更のある場合は申し送り、ノートを活用し伝達している。一人一人に合わせ、錠剤から粉薬への変更、服薬援助のゼリーの使用等、きちんと服薬出来るように支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の趣味、楽しみ事を把握し、喜び、張り合いのある生活が出来るように支援している。役割を持つことで張り合いもでき、感謝を伝えることを忘れないようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子の方、また歩行が不安定な方が多数である為、日常的な外出の支援が難しい状況である。一部の方は家族の支援により行えているが、全体としては出来ていない。 (外部評価) 事業所の広い敷地の各所にベンチを設け、利用者は散歩や外気浴を楽しめるよう環境整備をしている。眺めの良い畑やユニット間のウッドデッキ等利用者は自由に行き来することができ、利用者は気分転換を図っている。行事等を利用して、日頃行けない場所へ出かけ、家族の協力を得て家族合同での遠足等を実施するなど、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物自体の支援が現在難しく行えていない為、使うことの支援は出来ていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望があれば、電話をしたり、手紙を書いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用部分、廊下等無駄なものは置かず、広々とした空間、天窓から自然光を取り入れ刺激のない優しい雰囲気を保っている。壁面にも季節感の取り入れた飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。</p> <p>(外部評価) 木造平屋の共用空間は、開放的で広々とした造りになっている。採光窓からの自然光や快適な暖かさが得られる床暖房があり、清潔に保たれ利用者は快適に過ごすことができる。広い畳スペースやユニット間のウッドデッキ、景色を見渡せる畑等、利用者の立場に沿った配慮が随所に見られ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者一人一人が思い思いに過ごして頂けるように、玄関、畑には複数のベンチを設置する等、工夫している。和室、ソファーでは気の合う方と話をしたり、一人で過ごしたりと自由に過ごせるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた馴染みの物がある方は継続して使えるよう説明し持ってきて頂いている。居室には家族様からの手紙、写真等、いつでも見ることが出来るように配慮し、居心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、利用者の思い入れのあるものを持ち込むことができる。居室には仏壇やテレビ、寝具等を持ち込み自由にレイアウトして楽しんでいる。床に布団を敷いたり、床で生活できるよう工夫された居室もあり、利用者の習慣に合わせた暮らしを実現している。また、居室入口には利用者の目線に合わせた場所に表札を設置して、混乱を防止している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室には、遠くからでも自分の部屋であることが確認でき、迷わないように大きな名札を設置している。施設内には歩行、車椅子の通行の邪魔になるものは置かず、転倒の防止に努めている。手すりも多く設置し、どこでも手すりを持って移動できるようになっている。</p>	